

本のひろば

出会い・本・人

ブルヴァード・S・チャイルズ 鎌野直人

本・批評と紹介

並木浩一 著

旧約聖書の水脈 左近 豊

松本敏之 著

マタイ福音書を読もう2 木村利人

市川一宏 著

「おめでとう」で始まり

「ありがとう」で終わる人生 大宮 溥

J・L・フロマートカ 著／平野清美 訳、佐藤 優 監訳

人間への途上にある福音 野本真也

越川弘英 著

旧約聖書の学び 小栗 献

スタンリー・ハワーワス 著／東方敬信 監訳

大学のあり方 朴 憲郁

中村吉基 著

キリストは私たちのただ中に 関田寛雄

K・リーゼンフーバー 著

近代哲学の根本問題 茂 牧人

住谷 眞 著

烈しく攻める者がこれを奪う 藤掛順一

村松 晋 著

近代日本精神史の位相 釘宮明美

ジョン・ヒック 著／若林 裕 訳

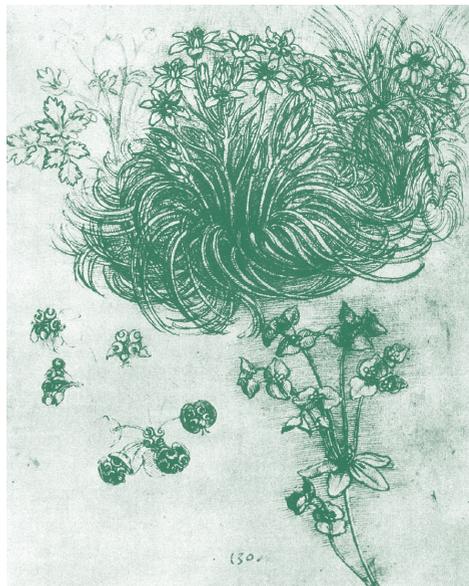
神とはいったい何ものか 稲田 実

イェルク・イェレミアス 著／関根清三、丸山まつ 訳

なぜ神は悔いるのか 柊 暁生

近刊情報

書店案内



11 NOVEMBER
2014

ルターの言葉

信仰と思索のために

W・シユパルン編 湯川郁子訳



宗教改革者として知られるルターは、神学的思索のみならず、悲しみや苦難を乗り越えて生きる優しくも力強い言葉を残している。「福音を生きた」ルターの名句・名言集。

● 四六判・262頁・本体2,000円

中世キリスト教の社会教説

E・トレルチ 高野晃兆訳



教会の理想とする社会のあり方が、初めて実現された中世。国家と教会が融合し、統一的文化を形成した(中世カトリシズム)の理想とトマス・アクイナスの不朽の意義を説く。

● A5判・306頁・本体4,000円

改革教会信仰告白集

基本信条から
現代日本の信仰告白まで

関川泰寛・袴田康裕・

三好明編



改革長老教会の教理的基礎の集大成。古代の基本信条と、宗教改革期と近現代、そして日本で生み出された主要な信仰告白を網羅した画期的な文書集。日本の改革長老教会の信仰的なアイデンティティの源流がここに！ 御言葉によって常に改革される教会に連なる牧師・信徒必携の書。

● A5判・720頁・本体4,500円

子どもと親のカテキズム

神さまと共に歩む道

● B6判・64頁・本体500円

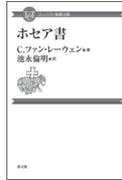


日本キリスト改革派教会大会教育委員会はじめて教理を学ぶ人のために作られた教理問答。教会(日曜)学校や教会員の家庭のみならず、洗礼志願者への信仰の手引きとしても使えます。

ホセア書

● 四六判・224頁・本体2,700円

C・ファン・レーウエン 池永倫明訳



不実な民に対する神の忠実と愛を示し、イスラエルに対する審判と救済を語ったホセア書。最新の学問的成果を踏まえながら、手堅い翻訳と明快な解説によってその特徴を明らかにする。



出会い・本・人

ブルヴァード・S・チャイルズ——鎌野直人

チャイルズの『聖書としての旧約聖書』緒論』に出会ったのは、アズベリー神学校の牧師養成課程で学んでいた頃だった。卒業後一年間、帰国している間、『正典的文脈における旧約聖書神学』が私の座右の書であった。批評学的方法論を重んじつつも、聖書のテキストの最終形態を重んじて、神学的に思索する彼の著作が私には魅力的であったからだ。

一九九三年秋、再度留学する機会が与えられた時、私は迷わず、チャイルズが教えている、エール大学神学部の神学修士課程を選んだ。残念ながら、その年の秋学期、彼はサバティカルであった。ただ、彼の深い薫陶を受けたエレン・テイビスやクリストファー・サイツの授業を取ることができ、テキストの最終形態と間テキスト性にこだわるチャイルズの手法を彼らのうちに垣間見た。

一九九四年冬、チャイルズの「詩篇」と「イザヤ書」の授業を受講した。「イザヤ書」は、大規模クラスであった。できる限り彼に近い所で話を聞こうと、私はいつも最前列に陣取っていた。編集史的な視点をチャイルズは忘れることはなかった。そのうえで、かつては「目の前の出来事に関する警告と訓戒」であったイザヤのことは、聖なる書としてまとめられ、将来の世代に受け渡されていく中で、「将来のことをあらかじめ語ることは」へと

移り変わっていくダイナミックな動きを彼は強調した。歴史的批評的で、ミクロな視点だけでは読み取ることのできない、共同体的で、神学的な読み、いわゆる「正典的アプローチ」がそこにあふれていた。また、若い学者の知見をも喜んで受け入れるチャイルズは、このクラスのために書いた拙論を後に出版される彼の『イザヤ書注解』に引用してくれた（名前が誤って綴られていたのは愛嬌だが）。

その年の夏、チャイルズのかつての同僚や親友が教えているユニオン神学校（ヴァージニア）へ私は進学した。博士課程在学中に彼に再会した折、「教授たちの授業は厳しい」と私はつぶやいた。「それはいいことだ」と即座に返答してくれた。コヘレトの言葉については博士論文の進捗状況について手紙を送ったときには、その研究はきつとよいものになると、励ましてくれた。彼の励ましの手紙は、今も、私の手元にある。

チャイルズの著作の邦訳は『出エジプト記』のみである。世界の聖書神学に大きなインパクトを与えた学者の著作がもうすこし日本で紹介されてもいいのではないか、と思う。

（かまの・なおと＝関西聖書神学校学監）

旧約を学ぶ者にとつての霊的な源泉、知的な手引き
並木浩一著

並木浩一著作集第三卷
旧約聖書の水脈



左近 豊

足元を踏みしめながら、ひと足ずつ旧約聖書の山路に分け入って先立ち進む並木氏の肩越しに遙かに連なる山塊の稜線を仰ぎ、時折開ける眺望から眺める景色と色合いの重なりと新たな発見に心躍らせながら、次なる一步を踏み出す興奮と喜びと勇気を与えられる書物である。旧約聖書を神学的・思想的ダイナミックさをもつて、かつ聖書学の地道で精緻な議論を踏まえる厳格さを毫もおろそかにせず、鋭敏果敢に現代の諸思想と対峙し格闘し腑分けし咀嚼し、旧約テクストの深淵における思想の相剋に晒し、熱情と冷徹をもつて新しい地平を切り拓き、先駆者の孤高を引き受けて多くの後進を国内外の研究の舞台へと引き上げ、手引きしてこられた並木浩一氏の著作集第三巻が刊行された。

教会的な神学者。教会を愛し憂い、教会に心躍らせ心痛め、教会に仕える牧者を見えざるところでも祈りと研究で支えてこられた著者。この第三巻は、特に旧約聖書を学ぶ手掛かりを渴望している方々にとつて霊的な源泉を見出しうる知的な手引きとなる。旧約聖書に留まりつつ新約聖書の福音の響きをか

たに聴くことになる。例えば比較的ページが割かれた第二イザヤについての記述の後の以下の件は魂を震わす。神の贖いを力強く告知しながらも自らは贖いの完成にあずかることなく、屈辱に耐え、捕囚の地で骨を埋めるといふ犠牲を生きた預言者たちの生涯に見えてくるもの。それは「贖う力を持つのは神のみであり、人は人の罪を真に贖うことはできない。しかし人間が他者の罪を背負う犠牲と、そのことの記憶の積み重ねがイスラエルに課せられた使命であつたらう。その使命の自覚が、自分の霊的な命を差し出しても、人びとの罪の赦しを乞うた、神と民族との仲保者モーセの姿に結晶した」(一二頁) ということ。他者を生かすために神から見捨てられることさえ覚悟する「とりなしの愛」を体現し神の民のシンボルとなつたモーセの記憶(四二頁)、その記憶を源泉として流れ出す水脈となり展開された旧約預言者たちの精神を教会は引き継いで、友のために命を捨ててくださったキリストの福音に生き、命の泉として湧き出す言葉へと召されていることを思い起こさせられよう。この書に流れるいくつかの水脈の重なり「契約の理解」が

姿を見せる。特に「古代イスラエルにおける契約思想」と付論「預言者における契約の表現」において著者は、本来、神と民との交わりはヤハウェが招かれる食卓を囲む度に確認される「兄弟盟約」に根差していること、特に預言者においては人格的な夫婦の關係に置き換えられて人格的な結合關係として「契約」が捉えられていることを明らかにする。ここから読者は滔々と流れ出る豊かな水流のほとばしりと飛沫を浴びるようになる。著者は、この本来の關係が根底から揺さぶられ、基盤が浸食され、崩壊の危機にさらされた時と場を、経済発展による都市化した紀元前八世紀の社会に見出す(六一頁以下)。都市は理想を作り上げながらも、現実には激しい落差を露呈する。そこに思想が生まれる、と。預言者の意識が怒涛の如く今に迫る。本書第三部はまさにその現代日本の精神風土に対峙する聖書の持つ「一神教の感覚」について論じられる。カルトに見られがちな他者感覚の欠落から説き起こされる「人稱を持つ神と人

間」、知識人と言われる人たちの間に蔓延る一神教の排他性という言辞に触れつつ、モルトマンの一神教批判に真正面から対峙し批評を加える「旧約時代における多神教と一神教」「旧約聖書形成期に見る一神教の三類型」は多くの読者にとつて関心のあるテーマであろう。一神教か多神教かという問題設定自体を問い、そこからの脱却を促す視点は、教会が「近代市民社会における自発的な結社の精神を良心的に担う共同体」(二四二頁)を聖書的に形成してゆく道を指し示すコンパスとなる。手引きされながら、立ち止まって川のせせらぎに耳を澄まし、木漏れ日に輝く露の煌めきに目を注ぎ、突然に篠突く雨に打たれ、激しい水流の飛沫に慄くように、旧約聖書の世界を旅する醍醐味がこの書には散りばめられている。

(さ)ん・とむ || 日本基督教団美竹教会牧師
(A5判・三五〇頁・本体四〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

クリスマスプレゼントに最適な
絵本&児童書 新発売!!



幸福の王子

オスカー・ワイルド 原作 ジェーン・レイ 作 木原悦子 訳

「幸福の王子」の像と出会ったツバメは、王子に自分の体から宝石や金箔をはぎ取って、町の人たちに与えるようにと頼まれ……。

A4判変型 上製・322頁・1728円

エッセイの木

クリスマスまでの
24のお話



ジェラルディン・マククラン 沢知恵 訳 池谷陽子 絵

児童文学の名手が紡ぐ、「アダムとエバ」から「イエス」に至る24の物語。おじいさんが男の子に語りかける。小学校中学年から

A5判 上製・158頁・1944円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigy@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

問いかけられ、慰められ、イエスへと導かれる
松本敏之著

マタイ福音書を読もう2 正義と平和の口づけ



木村利人

『マタイ福音書を読もう』という呼びかけに応えて、本書を手にする読者は、最初の数ページを読んだだけでその内容に引き込まれてしまっただろう。文章は明快で、その的確なことばに深い思いをこめた表現には心のゆとりとユーモアがあり、時に声に出して読みたくなるリズム感がある。

たとえば、こんな文章にハッとさせられる。「信仰がいつしか形式的になり、神様がいてもいなくてもいいとした違いのない人生。礼拝の出席や献金や奉仕など、やるべきことをきちんとやって、それで満足している人生。そのようにしている自分に合格点を出し、そのようにしていない他の人（クリスチャンを含めて）を批判する。心のどこかで（いやはつきりと）、自分はそのほど悪くないと思っています」（二二五頁）と述べられていることに心当たりのある？ 私たちが、先ず読まなければならぬ本なのだ。

第一に、本書のユニークさは、桃井和馬氏による表紙カバー写真に現れている。アンデス先住民は、南半球の真冬六月の「雪と星の祭り」で、祈りつつ五千五百メートルの山頂での夜

明けを迎えるという。天と地を結ぶしるしとしての十字架の写しは、本書の内容にとても相応しい。

第二に、本書のサブタイトル「正義と平和の口づけ」はまさに、現代日本社会への強烈なメッセージである。「平和もどき」の例として、古代ローマ帝国時代のパックス・ロマーナや現代のパックス・アメリカーナの「軍事力による平和」の虚構を暴き出す。その一方で、「安易な和合」ともいうべき日本人好みの現状維持的あり方の問題性をやんわりと、しかし鋭く批判する。「こういう状況は、一見平和に見えます。穏やかです。しかし問題は何も解決せず、先送りにされているだけなのです。……根は同じ」（八五―八六頁）だと静かに諭される。

この二つの「平和もどき」の根本的な問題は、そこに「正義が存在しない」ことだと、詩編「怒しみとまことは出会い 正義と平和は口づけし まことは地から萌えいで 正義は天から注がれます」が引用され、「何と美しい言葉、しかも何と奥深い言葉でしょう。私は、これは聖書の中で最も大事な言葉の一つであると思います」「主が宣言される平和のもとでは、『愛』

と『真実』が出会い、『正義』と『平和』が口づけをするのです」と語る。本書のクライマックスである（八七―八八頁）。

「主の平和」は忍耐を要し、多くの人々の利益に反し、嫌われる。だから、キリストの弟子であろうとする者は、逆風の中を生きることを強いられる。「私たちは、主イエスご自身が、そのような道において殺されたということを忘れてはならないでしょう。この剣はまず、主イエスご自身に向けられた剣であったのです」（八八頁）とする深い洞察を通し、日本を含む世界の各地で主イエスの平和を実現しようとしている者には、冷酷・非情な剣が向けられるだけではなく、場合によっては殺されるという恐ろしい現実があることが示唆される。

第三に、通常は、何となく見過ごしてしまう本の「帯」にある「イエス・キリストって何をした人ですか？」は、本書の内容にピッタリだ。「マタイ福音書を読もう」との語りかけを通して、本書は、イエス・キリストが何をなされたかの出来事と

意義とを説き明かしているからだ。この連続講解の呼びかけにより、私たちは問いかけられ、考えさせられ、慰められ、励まされ、豊かにされ、イエス・キリストへと導かれる。

日本の教会・キリスト者とそのエキメニカルな展望が、荒井英子、小山晃佑、弓削達、A・カミンスキー、M・L・キングなど信仰の先達のコメントを参照・引用しつつ語られている。世界の中の日本というコンテキストの中で生きている私たちが真に「解放」されるとは一体どのようなことなのかに迫る根源的メッセージが、著者の海外宣教（ブラジルに七年）の豊富な経験をもふまえて語られていることに感動した。

本書は、未来へと悩み苦しみつつ生きているキリスト者にとって必読の、主にある新たな「希望と喜びの書」であり、教会の読書会・修養会や学校教育の現場で、対話しつつ聖書を学ぶための最適の書である。（きむら・りひと 早稲田大学名誉教授）
（四六判・二三四頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

並木浩一著作集3
旧約聖書の水脈
全3巻 完結!!
モーセの生涯や預言者たちの批判と幻、雅歌が伝える愛と喜びなどに注目し、聖書を貫く「水脈」を追う。旧約聖書は現代に意味を持つのか。
A5判・350頁・4320円

好評発売中
1 ヨブ記の全体像
A5判・338頁・4,320円
2 批評としての旧約学
A5判・350頁・4,320円

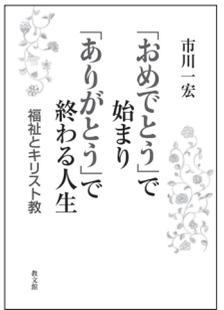
松本敏之
**マタイ福音書を読もう2
正義と平和の口づけ**
全3巻 第2回本
マタイ福音書の通説を導く全3巻シリーズ。第2巻はガラリヤ周辺におけるイエスの活動と言葉を描く。
四六判・234頁・1944円

1 一步を踏み出す
好評発売中 1,944円
3 その名はイエス・キリスト
2015年2月刊行予定

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

共生の道を歩む指針と原点
市川一宏著

「おめでとう」で始まり
「ありがとう」で終わる人生
福祉とキリスト教



大宮 溥

日本社会は今日、超高齢化社会に向かい、社会の各層に対して「生きる」意味とそれを実現するための支えを与える「社会福祉」が、大きな課題として浮かび上がっている。本書の著者市川一宏氏はこの春ルーテル学院大学学長の任を終えられたが（今も教授として在任）、日本における社会福祉の開発と発展に尽力して来られ、これを機会にこの分野で発表されてきた教示に、学長時代のメッセージを加えて出版された。本書は社会福祉の原点と今日の方向づけを示したものである。

社会福祉の原点としての隣人愛

本書の第一部は「共に歩む——これから生きる論文集」であるが、その冒頭で、社会福祉の原点として、人が共に歩んで支え合う温かな交わりを作り出す「隣人愛」があげられる。これは「よきサマリア人」の譬えに端的に示されているが、その愛の根源はキリストに示された「神の愛」である（第一ヨハネ四・一〇、イザヤ四三・四）。人間が愛された存在として受け取られる時、誕生にあたって「おめでとう」と迎えられ、去る

にあたって神と人との「ありがとう」と感謝するのである。社会福祉はそれに向かう場を提供する。

共助社会の形成

日本における社会福祉は、貧困者や障害者に対する地方自治体中心の援助という形で始まった。「自助」ができない人々への「公助」である。それは受給者を受け身の立場に置く。また施設に収容することによって社会から隔離してしまう。それに対して、地域において隣人として共に生きる「共助」の体制が次第に広がってきている。ボランティア活動はそのような動きに大きく貢献するものである。

地域共生の在宅福祉サービス

社会福祉活動として、入所施設中心から在宅福祉サービスへの拡大がみられる。これまでは、福祉のケアを受ける人は「家」か「施設」に置かれていたのであるが、その中間に「地域」で生きるというあり方を入れるのである。それによって、

生活支援の選択肢が増え、福祉によって生きる人たちが、単に受け身でなく、共生社会の一員として主体的に生きるようになる。孤立社会から絆社会へと導かれていくのである。

教会のコミュニティ参加

このような福祉社会の形成にあたって、教会はどのようににかかわっていったらよいのであろうか。「イエス・キリストの生涯が、人びとのため（for）にはなく、人びとと共に（with）であったという事実」（ラベル）から導かれて、教会の地域福祉実践は、コミュニティの中にあつて教会員のみならず、人びとの地域的ニーズを充足させ、同時に人びとの人間的成長を支援するものであることが求められる。これは直接伝道とは一線を画した「福音のバントマイム（無言劇）」、生活と行動を通じて、コミュニティ形成の仲間となることである。これまでもキリスト教は、社会福祉施設、幼稚園を含む学校等の形で、この

コミュニティ形成を推進してきたが、教会の建物をコミュニティづくりの場として提供するとか、教会員がその活動にボランティアとして参加する等が求められている。

三・一一以後の教会への道しるべ

日本の教会は二一世紀に入ってから、自分自身に少子高齢化の問題を持ち、社会に対して「地の塩、世の光」として参与する意欲にかげりが見えていた。それに対して東日本大震災は、人間の傲慢を砕くと共に、共生の絆に結ばれたコミュニティの再形成の課題を突き付けた。教会もこのコミュニティ形成の使命を改めて自覚し、それに努力している。本書は、その道しるべとなり、またその道を歩む情熱を与えるものである。

（おおみや・ひろし 日本聖書協会理事長）
（四六判・二〇二頁・本体一四〇〇円＋税・教文館）



新刊

聖書学論集 46

聖書的宗教とその周辺

佐藤研教授・月本昭男教授・守屋彰夫教授 献呈論文集

市川 裕・山我哲雄
朴 憲郁・廣石 望
編

●A5判上製 760頁 定価8,640円

【旧約関係16篇】

大住雄一／加藤久美子／金井美彦／杉本智俊／鈴木淳之介／高橋優子／長谷川修一／山我哲雄／山吉智久／飯郷友康／市川 裕／上村静／勝村弘也／杉江拓磨／三津間康幸／守屋彰夫

【新約関係18篇】

大宮有博／本多峰子／嶺重淑／山田耕太／山野貴彦／山吉裕子／吉田 新／浅野淳博／太田修司／河野克也／辻 学／朴 憲郁／原口尚彰／廣石 望／三浦 望／吉田 忍／大貫 隆／戸田 聡 の論攷を収録する。

ISBN978-4-86376-813-0

LITHON [リソソ]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

人間への途上にある福音

神の受肉の神学の徹底化
J・L・フロマートカ著
平野清美訳、佐藤優監訳
キリスト教信仰論



野本真也

佐藤優さま
今、読み終えました。年甲斐もなく、ちょっとセンチになっ
て、というか、感無量です。

なぜかって？「この本が私の人生の方向を定めた」と常に
書かれているように、卒業後のあなたの驚くべき生き方と、そ
れを支えてきている信仰と神学の理解の元型が、ここにあるこ
とがよくわかったからです。

今さら書くのはヤボというものですが、あなたがフロマート
カと出会うきっかけとなった「あの時」のことを、記憶が衰え
てしまった現在の私でも、はつきりと思い起こすことができま
す。

それは「あとがき」に書いておられるように、あなたが同志
社大学神学部二回生のとき、神学部図書室のカウンターのとこ
ろでしたね。

何しろ当時のあなたといえば、明德館前で「野本は（愛のり
アリティ）などと講義で言っているが、キャンパスの京田辺移
転と授業料値上げを目論んでいる大学当局の尖兵なのだ」と、

カが第一次世界大戦を小国チェコで牧師として経験し苦悩する
中で抱くようになった鮮明な召命観にもとづく強烈な危機意識
が、第二次世界大戦におけるナチズムとの闘い、そしてその後
のスターリン主義との闘い、さらには平和や貧困など世界の諸
問題をめぐる対話と行動に貫かれていることです。

そして、この危機意識は、神の言葉の受肉の徹底化というキ
リスト論によって強力に裏打ちされていることにも強い感銘を
受けます。

フロマートカは、西側でも東側でも誤解されることが多かつ
ただけに、古今東西の神学者や教会・教派の見解との共通点や
相違、問題点などを提示しながら、自らの立ち位置を明確に伝
えようとしています。その結果、この本は当時のフロマート
カ自身の意図をはるかに超えて、半世紀を経た現在でも、教会
と世界の諸問題に深くかわるメッセージを強烈に語っている
ことにも驚かされます。この本はまさに歴史の類比にもとづく
「預言」の書ですね。

「預言」といえば、たとえばエレミヤは、当時「平和」を語
っていた偽預言者とは反対に「滅亡」を告知したことがありま

マイクをもってアジッておられたのですから、そのあなたが熱

心に図書カードをめぐっていたのに驚いても不思議ではありま
せん。しかも、キリスト教社会倫理や東ヨーロッパに強い関心
があると聞いて、さらに驚きを感じ、とっさにフロマートカの
ことを紹介したのでした。もちろん当時は「ロマドカ」でした。

一九五〇年代後半に神学を学び、学生運動も経験した年代の
者にとって、「社会主義とキリスト教」は大きなテーマでした
し、フロマートカは社会主義世界に生きるキリスト者、またキ
リスト者平和運動の推進者として注目されはじめていました。

一九六三年夏、ジュネーブでアジアからヨーロッパに留学中
のキリスト者学生を集めた平和会議が開かれたとき、当時ハン
ブルクに留学していた私も参加したのですが、その会議にチェ
コからフロマートカの門下生の若いバヴェル・フィリップ牧師
（現カレル大学神学部教授）が発題者として招かれていて、と
ても親しくなり、彼から勧められたのがこの本のドイツ語版だ
ったのです。

今この本を読んであらためて感銘を受けるのは、フロマート

したが、あなたが外交官時代にモスクワから一時帰国した折、
私たちの教会で「ソ連は崩壊する」と語られたとき、正直「そ
んな馬鹿な!」と皆で思ったことを思い出します。しかし、
数年後、あなたの「預言」は的中しました。

今、あなたは「新・帝国主義」「第三次世界大戦」「新自由主
義」「全体主義」「テロリズム」などの脅威について、歴史と世
界の構造を緻密に考察しながら精神的に発言しておられます。
私はこの本を読むことで、あなたの発言がフロマートカの神学
的メッセージに裏打ちされていることをあらためて確信するこ
とができました。

神学とは、いつも語り合っているように、すぐれて歴史的、
実践的なものです。この本のメッセージの読みを深め、自省す
るために、今からもう一度、あなたが前に訳されたフロマー
トカの自伝「なぜ私は生きているか」（新教出版社 一九九七）
を読み返すことにします。

ご活躍のうえに豊かな祝福を祈りつつ。

（のもと・しんや）日本基督教団賀茂教会教師、同志社大学名誉教授
（四六判・三七四頁・本体三五〇〇円＋税・新教出版社）

教会での入門講座でも用いたい一冊
越川弘英著

旧約聖書の学び



小栗 献

本書は著者が担当するキリスト教主義大学の旧約聖書の教科書としてまとめられたものである。一般大学の学生に聖書を学ぶモチベーションを与えることは難しいだろうと想像する。必修授業であればなおさらである。長く学生と直接の関わりをもってきた著者がどのようなスタンスに立ち、何を語ろうとするのか、興味深く読ませていただいた。

著者はあとがきで、次のような目的を設定したとしている。
・最初に聖書に触れる人が、旧約聖書の全体像を把握できるようにすること。
・旧約聖書の内容が現代人にとって意味あるものであることを示唆すること。

・教養的な意味での入門書の役割を果たすこと。
全体の構成は三つの部分に分かれている。第一部は創世記から神話のいくつかを取り上げて、この世界とは何か？ そして世界の中に生きる人間とは何ものかを考える。第二部は、アブラハムから始まるイスラエル民族の歴史を通して、「生きる」とはどういうことなのかを問いかける。そして第三部では、預

言書、詩編、文学をとりあげ、聖書の中で人は神から何を聞き取り、人は神に何を語ってきたかを見ながら、この世界の矛盾や葛藤を更に深く掘り下げていく。本書で取り上げられるテーマは、現代を生きる私たちの現実と直結したものであり、「わたし」の問題として迫ってくる。そこにこそ、学生が旧約聖書を学ぶ理由と動機があることを著者は示しているように思う。

本書は信仰的な入門書ではないし、旧約聖書概論でもない。知識を詰め込むことを意図しているのでもない。著者はむしろ旧約聖書のテキストを用いて、この世界とは何か？ 人間とは何か？ を考えたいという、遊びにも似た営みに学生を招いている。著者は旧約聖書を徹底して相対化し、距離をおきながら語る。彼が時折挟むテキストに対する「つつこみ」には、ホッとさせられるものがある。また旧約聖書がただ一つの結論をもっているのではなくさまざまな側面があり聖書の中でも相矛盾していることをつまびらかにしていく。多様な読み方と解釈があることも紹介していく。そこには聖書にはじめて接する学生に寄りそう姿勢があり、また著者自身が生身の自分自身と向き合

いつつ、聖書を読んでいるということも感じる。著者は旧約聖書を「回答」としてではなく、むしろ人生の問題集として扱っているように見える。最後の章にヨナ書を選んだ著者は、全体の締めくくりも「開かれた終わり方（オープン・エンディング）」としている。しかしその上で著者は語る。

「嵐のような混乱と危機のただ中に置かれている時にも、あるいは魚の腹の中に閉じこめられたような逼塞した暗い状況の時にも、恵みと憐れみの神は、私たちヨナを見つめつけておられる……つまるところ、そのような恵みと憐れみの神が私たちと共におられるという原事実に基づいてこそ決定的なことなのだ……」

本書は、複雑で矛盾に充ちているこの世界と私たちの人生を直視するが、その中にもこのような著者の信仰が全体を貫いていることを私たちは知ることになる。

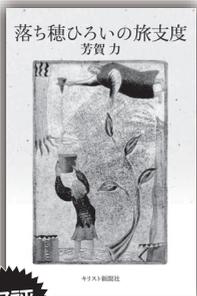
著者は旧約聖書の専門家ではないがゆえに細かい議論に拘泥

しすぎることなく、自由な立場で聖書を読んでいると思うが、それでもなお、旧約聖書を学ぶ上で知っておくべき事項については、比較的新しい論議も含めてしっかり押さえているのはさすがである。大事なことはゴシックで強調されている。「教科書」っぽい。

本書を通して学生たちは、「旧約聖書」という書物そのものが、自分の人生を考える上での素晴らしい「教科書」であることを知るだろう。本書を学生だけに独占させるのはあまりにもつたいないことである。教会での入門講座などでも用いることによって、より豊かで本質的な話し合いがなされることになるだろう。

(おぐり・けん) 日本基督教団神戸聖愛教会牧師
(A5判・二二六頁・本体一六〇〇円＋税・キリスト新聞社)

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中!

▼神学者として注目を浴びる著者による神学的随想集 落ち穂ひろいの旅支度 芳賀力◎著

本書は「思索の小さな旅」(キリスト新聞社刊品)に続く随想集で、旅に寄せての雑感を書き綴ったものである。神学的紀行文を書くというには、筆者のような著者にとって、収穫のおぼれに与るような落ち穂ひろいの趣きがあります。とは言っても限られた日程なので、学会に向いたついでに折りこみ強行軍を敢行することもたびたびでした。あまり堅いものはかりでは食傷気味になるので、自分のブログに気軽に記したのも少し加えました。(本書あとがきより)

■四六判 190頁 1600円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

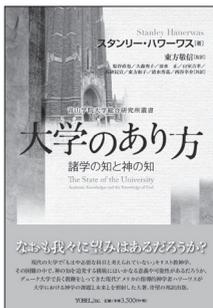
神学的学問体系である本格的「大学の神学」論を提示！

スタンリー・ハワーワース著、東方敬信監訳

青山学院大学総合研究所叢書

大学のあり方

緒学の知と神の知



朴憲郁

英語圏で最も著名な神学者の一人であり、世界的にも注目されるS・ハワーワースは、二〇〇一年の著書『宇宙の結晶粒と共に——教会の証言と自然神学』の最終章で、近代的大学論を神学的に探求した。それを発展させたものが、東方敬信監訳により共同邦訳出版された本書（原書は二〇〇七年発行）である。これは、青山学院大学総合研究所・研究プロジェクト（代表・西谷幸介）「キリスト教大学の学問体系論」（二〇一〇～二〇一三年）の成果の一つのことである。

評者は数年前に、近代以降の古典的学問の名著であるニューマンの『大学の理念』J.H.C. Newman, "The Idea of a University", 1852)を中心とするキリスト教大学論の研究を志すある大学院神学生の修士論文指導をしたことがある。その際に、近年この分野で本格的に論じた諸文献を採す内に、東方氏を介してハワーワースの "The State of the University" に出会って、それを手にした。このたび彼の優れた大学論「いや、神学的学問体系論である北米発信の本格的「大学の神学」が日本の読者に、特に建学の理念構築とその実現に頭を悩ますキリ

001・9・11を踏まえた現在、「暗黒時代に生きている」と段落ごとに言い切って、それがなぜかを多様な仕方でも述べる。「セプテンバー・イレブン」に反応して私たちの命を捉えた悲しみについての真実な説明を提供できなかった無力は大学の失敗というほかない。『これは戦争だ』は、悲しみに対する適切な言葉ではない。……」（二一七頁）。

第1章は、リチャード・レヴィンが一九九三年、イエール大学の学長就任後に行った「独立した思索の力」と題する講演を取り上げ、彼がニューマンを引き合いに出して強調した（ヘリベラル・エデュケーション）を批判する。確かにニューマンは、すべての科学とは区別される哲学こそ「諸学問の学問」と信じる。しかし諸学統合の理論たる哲学の意義は、彼の次の主張においてである。「神学抜きに大学教育はまさに非哲学的である」。この点をニューマンの『大学の理念』から適切に引用したハワーワースは、他の諸学問は神学を必要とし、知識全般もしくは種々の学問的真理を保持するための条件として、神学を位置づける。もちろん神学は他の諸学問を必要とし、諸学問から謙虚に学ぶべきであるが、そのように関わりつつ、諸学を持つ大学に建設的な役割を果たし得ると、ニューマンの大学論から引き出す。

さらに、神学はもう一方で、教会に仕える至高の学問でもある。振り返ってみれば、中世ヨーロッパと新大陸アメリカにおける大学発祥の母体は、キリスト教共同体・教会であった（四

スト教大学関係者に、広く共有されることは極めて意義深い。

神学的大学論については、P・テイリツヒ、R・ニーバー、W・パネンベルクなどから多くを学ぶことができるが、ポストモダンの最近の神学的、世界的諸状況を鋭敏に捉えて論戦を張るハワーワースの論述は群を抜いて注目され得る。ただし、本書でそれぞれ刺激的なテーマを扱っている1章から12章までは、順序立てて構想されたものでなく、その都度必要に応じて論考したものの、論敵との自由闊達な論争、講演の原稿などを一書にまとめたものである。たとえば、第1章は3章と8章の執筆後に書き下ろしたものである。しかし、著者自身が序章で述べているように、第1章「神学の知と大学の知——探求の開始」は腰を据えた意欲的な大学論であり、他の全章を俯瞰させる内容となっている。

先に、「最近の……世界的諸状況を鋭敏に捉えた」と述べたが、その一例として、第8章（エクレシヤのため、テキサスのため）で著者は、民主的アメリカを今なお世界に誇っているアメリカ市民とその中の自分たちキリスト者自身に向かって、2九頁）。しかしその後の諸経緯の中で、近代的大学において神学は適切な科目でなく、大学から排除されてきた。なぜかとハワーワースは鋭く問いつつ、論争的にその動向を押し返し、諸学の認識論的慢心に対する神学的批判を忘れない。しかしそれは、諸学を根拠づけ生かす神学の奉仕の批判である（四九頁）。

本書の付論A、B、Cでは、キリスト教大学とチャペル礼拝大学と教会・神学校との関係における今日の問題を論じていて興味深い。

ハワーワースの神学的大学論が、日本キリスト教大学、とりわけプロテスタント大学の代表の一つである青山学院大学の今後の大学論形成に少なからぬ示唆と課題を提示していることは間違いない。

（ばく・ほんくく）東京神学大学教授、日本基督教団千歳船橋教会牧師
（A5判・三八四頁・本体三五〇〇円＋税・ヨベル）

宗藤尚三著 ヨベル新書022・1000円＋税

核時代における人間の責任

ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために

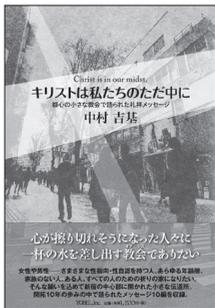
川上直哉師・評 本書は「被曝牧師」としてまた「日本の被曝キリスト者」として……「責任」という言葉への、宗藤さんの真摯さが、そこに見られる。

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
自費出版の専門出版社

「誰でも居場所」になることを目指して語られた
一〇周年記念説教集！

中村吉基著

キリストは私たちのただ中に 都心の小さな教会で語られた礼拝メッセージ



関田寛雄

「今、笑えなくても」

かつて心を病む兄弟に電話をした。教会の交わりから遠くなくなった彼にクリスマス礼拝への参加を促してみた。帰ってきた答えはこうだった。「先生、教会に行ったら笑わなくちゃいけないでしょう。でも僕はまだ笑えないのです」「分かった。じゃ二人だけでクリスマス礼拝をしようよ」。そしてA駅近くの喫茶店で二人だけのクリスマス礼拝を守ったのである。教会は「キリストの体」であり、教会に集う人は「神の家族」である。にもかかわらず教会に行けない人々がいる。自分の側の理由で。そのような人々のための教会がある。「今、笑えなくても」行ける教会がある。それが新宿コミュニティ伝道所である。

本書の著者はこの伝道所の牧師であり、今年創立一〇周年を迎えての記念出版がこの説教集である。本書の中には引用されていないが、この伝道所には「ミッシェン・ステートメント」がある。それは『旅する教会』と題した伝道所開設一〇周年の記念誌に含まれている（ホームページにも掲載されている）。

それを引用する。

「新宿コミュニティ教会は、女性や男性——さまざまな性指向を持つ人びと、子どもやお年寄り、ティーンズや青年や熟年、家族のない人やある人、そして教会を訪れるすべての人のための祈りの家として開かれています。」

私たちは礼拝、祈り、奉仕、教育、および交わりを通してイエス・キリストに示された福音に生きます。そしてすべての人が、あらゆる抑圧から解放する神の愛、完全性、および正義を経験し、神とすべての造られたものがふさわしい関係の中に生き、この世界を変える神のみ業に、私たちが勇気を持って参与できるようにすることを求めます。」

このステートメントを読む限り、ごく当たり前の教会のあり方を示しているのだが、その当たり前と思われる教会に自らの居場所を見出せない人が居るのである。この伝道所は「誰でも居場所」になることを目指している。そのような教会になるため、著者は最初の礼拝の説教（二〇〇四年四月四日）を「主がお入り用なのです」（ルカー一九章二八―四〇節、本書五頁）

と題して行なっている。イエスがメシアとして子ろばに乗る姿の中に「低くなるイエスさまの姿をみるのです」（九頁）と語る著者はさらに、「私はこの小さなろばの姿に、新宿コミュニティ教会を重ねあわせて見えています」（同）と述べる。正にこの伝道所は主イエスが必要としておられる「子ろば」なのであり、そうありたいとの願いが、この説教集を一貫しているのを見ることができると。

そのようにしてここには一〇篇の説教が収められている。そのメッセージと共に礼拝式文の改訂がまず行われる。それは「性別、人種、身体的な状態などの言葉において偏りや差別的な表現をなくすように、できるだけ包含的な言葉に言い換え」る作業であった（一七頁）。その背景には著者がニューヨークのある教会で、「この教会はHIV／エイズで亡くなった方々の葬儀を積極的にしていることで有名です」（二二頁）との言葉を聞いた時の衝撃的な経験（他の教会では葬儀はしないのだろうか……）という問いがある。「それまでの何年もの間、行き場のない人々は自分の所属する教会からも見放され、

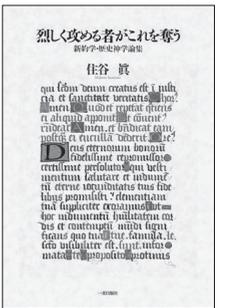
どのような気持ちであったのでしょうか？」（二二―二三頁）。ここに「誰でも居場所」になる教会の出發があったのである。そして「渴いている人はだれでも」（ヨハネ七章三七―三九節、二〇〇七年九月一六日）と呼びかける説教があり、今も闇の中を歩む者には、「それでも朝は来る」（マタイ二八章一一―一〇節、二〇〇八年三月三日）と宣言される。なぜなら「キリストは私たちのただ中に」おられ、「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」（ローマー一〇章九―一二節、二〇一三年七月一三日）からである。

私たちキリスト者はかつて「絶対隔離」という、ハンセン病患者への国策に対して誤解と偏見に包まれて何もしなかった。今日HIV感染者／エイズ患者に対する誤解と偏見を克服し、「包含的な言葉」に生きる教会の形成が求められている。「今、笑えなくても」、やがて笑える人間を育む教会になりたいものである。

（せきた・ひろお）日本基督教団神奈川教区巡回教師、青山学院大学を専攻教授
（四六判・二二八頁・本体二二〇円＋税・ヨベル）

解釈困難箇所への果敢な挑戦
住谷 眞著

烈しく攻める者がこれを奪う 新約学・歴史神学論集



藤掛順一

著者住谷眞氏は、日本キリスト教会小平教会の牧師であり、日本キリスト教会神学校の新約学部門の講師であられる。本書は著者が日本キリスト教会神学校発行の「教会の神学」、及び「東北学院大学キリスト教研究所紀要」にこれまで発表してきた論文を集めたもので、第一部には新約聖書学の論文が十本、第二部には教父学・歴史神学・ギリシア語学の論文が五本収められている。

新約聖書学の論文はいずれも、「解釈困難箇所 (crux interpretum)」として古来聖書解釈者たちを悩ませてきた箇所に果敢に挑戦したもので、場合によってはこれまで少数派であった説を大胆に主張している。crux (十字架) が新約聖書の中心的テーマであるように、取り上げられているテーマはいずれも新約聖書解釈の要(かなめ)となる問題であり、これらの論文によっていくつかの重要な主張がなされている。たとえば「姦淫の女性のペリコーペ再考」においては、ヨハネ福音書八章の「姦淫の女性のペリコーペ」が、文体、文脈においてヨハネ的でなく、他から挿入されたものであるとされている通説は誤りであり、文体においても文脈においてもこれはヨハネ福音

ではなく)論は、著者が指摘しているように、わが国の福音主義教会において、正しくはほとんど理解されていない。そこに我々の重要な課題があることがこの論文によって指摘されている。

著者の論証は緻密であると共に説得力があり、明解である。著者の翻訳による「EKK新約聖書註解」の「ヨハネの第一の手紙」(H・J・クラウク著)を読んで感じたことだが、内容をよく理解しているがゆえに明解でわかりやすい翻訳となっている。翻訳においても示されている著者の力量の大きさが本書において遺憾なく発揮されている。

『烈しく攻めるものがこれを奪う』という書名はもちろんマタイ福音書二一章二節の言葉だが、本書において著者が洗礼論とユーカーリスト論について論じているエイレナイオスが『異端駁論』の中でこの箇所をふれ、「このゆえに主は、天の国が力ずくであると言ひ、力を行使する者がこれを奪う、すなわち、

書のオリジナルな本文であること、それが削除されたのは、二世紀の教会と写本家にとってこのペリコーペに描かれているイエスが姦淫の罪に対して寛容過ぎると考えられたからであることが論証されている。また「ヨハネ教団の最終相——ヨハネ21・9-14を中心に」では、ヨハネ福音書二一章の分析によって、聖霊による直接教導の下にあったヨハネ教団が分裂に直面して、位階制的、教導権的「大教会」と合同して古カトリック教会の成立へと向かったことが主張されている。この論文と、新約聖書中最後に書かれた「ペトロの手紙二」における「われわれ」が、「ペトロの遺言を継承する大教会としてのローマの教会の指導者」であり、教導権を有する位階制的存在であることを主張する「ペトロの手紙二」における使徒的『われわれ』が結び合い、初代教会から初期カトリシズムへの変遷を説得的に描き出している。

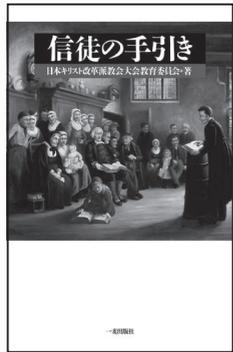
第二部の論文の中では「和協信条書における教職論」が、福音主義教会における教職論、役務者論を考える上で重要である。万人祭司の原理と、ministerium (奉仕の務め)論によって構築される福音主義教会の教職(信者と区別される「教職」で力と戦いにより油断せず熱心な者たちがこれを奪うと仰せになったのである)と書いていることからこの書名が取られたと「あとがき」にある。「これが信仰と学問に対するわたしの基本的な精神であり姿勢である」と著者は語っている。学問において「力と戦いにより油断せず熱心な者」としての著者の「精神と姿勢」が本論文集全体を貫いており、まことに本書に相応しい書名である。私事であるが、筆者は東京神学大学において著者と同級生であった。著者が「ギリシア語の変化表を写真のように頭に焼き付けて覚える」と言っていたのを感じて聞いた覚えがある。当時から三十年に及ぶ著者の「油断せず熱心な」学びが、このたび本書として豊かに実を結んだことを喜びたい。本書が外国語にも翻訳され、世界の最新聖書学界に著者の名が知られていくことを願っている。

(ふじかけ・じゅんいち)日本基督教団横浜指路教会牧師
(A5判・三八二頁・本体五四〇〇円+税・一麦出版社)



信徒の手引き

日本キリスト改革派教会
大会教育委員会



信仰の航路を導く灯台。

わたしたちは、
聖書と時代からの問いかけに
どのように応えるか。

四六判・並製
定価【本体2,200+税】円
ISBN978-4-86325-071-0



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト教を主軸とする近代日本精神史の豊饒な展開
村松 晋著

聖学院大学研究叢書9
近代日本精神史の位相
キリスト教をめぐる思索と経験



釘宮明美

近代日本の思想史を語るうえで、キリスト教の影響を等閑にすることはできない。とはいえ個別のキリスト者の研究は数多あるものの、キリスト教を視座の主軸に据えて一つの「精神史」として描き出そうとする試みは少ない。本書は、『三谷隆正の研究』（刀水書房、二〇〇一年）に続く村松晋氏の第二著作であり、その問題意識は「〔絶対者〕や〔超越〕をめぐる現実的課題と向き合いながら、〔実践〕の問題を見究めよう」（三一―三五頁）とすることにある。国家・社会・歴史との水平的関係と、それらを貫く超越的な神との垂直的關係、その両者の緊張關係の有様が全体に通底するテーマとなっている。

第一部「新渡戸・内村門下への一視覚」では、前田多門の「シヴィックス」（第一章）、南原繁と坂口安吾の天皇制をめぐる問題提起（第二章）、松田智雄の思想（第三章）が論じられる。中でも坂口安吾の「文学のふるさと」と「墮落論」を手がかりに、南原繁の天皇制をめぐる言説の基底にあった「絶対他者たる神」を照射する第二章は、鋭い批判力をもつ。文学と同じく信仰も、我々がそれを自己本位に都合のよい「ものがたり」に創り上げ、そこを「ふるさと」にして依拠するようになるや、現実との対

峙が遮蔽され「墮落」が始まる。南原にとって、超越的で彼方から応答を迫る神を前にしての畏れこそ、この世を相対化する批判軸であったという指摘は、現代においても常に新しい。

第二部「キリスト教受容の諸相」では、昭和戦前期長野県の一小学校教師キリスト者（第四章）、波多野精一（第五章）、氷上英廣（第六章）、井上良雄（第七章）を取り上げる。彼らの神理解の実質を見究め、「近代」といかに対峙したかが詳らかにされる。評者の関心を最も惹いたのは、ニーチェ研究者であった氷上による「二つのニヒリズム」をめぐる洞察である。近代日本は「近代世界の精神的危機であるヨーロッパのニヒリズム」を、「東洋固有の汎神論的仏教的ニヒリズム」である「無」を「深化拡充」させることで超克しようとしたが、この企ては「神秘主義」に帰結せざるを得ない。著者は、「禪的無と神秘主義」の神観にはキリストという「仲保者」が不在であるという水上の批判に注目し、「相対者たる人間」が「絶対者である神」と何の矛盾もなく連続的に「直接結ばれてしまふ」ことで、人間のほうが神の起源となるに至った近代の倒錯した神観を闡明にする。

吉満義彦の思想を主題とした第三部「近代の超克」とカトリシズム」では、その「近代批判」（第八章）、人間観（第九章）、時代における実践（第十章）を論じる。著者は吉満に即して、「信仰と理性の分離」を生んだルターさらに中世ノミナリズムにまで遡り、西欧精神史における神観・人間観の転回を跡づけることで「思惟の原理的レベル」からなされた吉満の近代批判の意義を浮き彫りにする。神の絶対的自由と超越性の確保ゆえに、信仰の領域から理性による神探究が排除されたとき、信仰から切り離された人間理性は、経験的世界の中に自足し絶対視されるようになった。バルトのなした神の絶対的超越性の強調と、神と人間・信仰と理性の分離対立の徹底による近代批判もまた、この枠組みを脱していないという指摘は実に興味深い。この「神―所造（被造）の關係認識の破棄」に対し、人間が超自然的恩寵の関わりのもとに置かれてあり、理性は「所造の価値を超越した創造者」によって初めて満たされ完成され

るといふ、トマス・アクィナスに基づく神と人間との関係性の再構築が吉満の「近代超克」の方向性の原理であったことを解き明かす。人間本性の究極目的は「神への愛」に基づく「神の本質直観」であり、神との一致である。それは「十字架の主に従い、自己を神へと完全に譲り渡す」謙虚（ケノーシス）のうちに果たされる。吉満の思想を本格的に論じた稀有の論文であり、カトリシズムの核心を捉え得ていて見事である。

豊富な注が示すように浩瀚な資料を精緻に読み解き、対象に真摯に向き合い肉迫しようとした本書は、優れた研究書に接する喜びを与えてくれる。その文体からは、著者――さらには無教会はじめ著者の恩師すじの方々のエッセイがおのずと伝わってくる。今後も豊かな展開が期待される好著である。

（くぎみや・あけみ 白百合女子大学文学部准教授）
（A5判・三三四頁・本体六八〇〇円＋税・聖学院大学出版会）



信仰のいろはをつづる

魂の解剖図と告白
フラウミュンスター教会説教集 I

ニクラウス・ペーター
Niklaus Peter
大石周平*訳



スイスで今、
最も注目を集める説教者！
伝統的な神学的主題を
新鮮な切り口で語り直し、
スイスの人びとの心をとらえた
力に満ちた説教。

2014年10月、著者初来日！

四六判・並製
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-072-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

真摯な問いと説得力ある回答

ジョン・ヒック著
若林 裕訳

神とはいったい何ものか 次世代のキリスト教



稲田 実

神はほんとうにいるのだろうか、どのような姿をしているのだろうか。これは人々が抱く素朴な疑問である。ヒックは、冒頭でこの疑問に哲学者の立場から簡潔に回答する。

人々は神が人間世界に介入することを望んでいる。介入しなければ神はいないことと変わりないからである。さらに人々は、神の介入が「善」であることを望んでいる（第一章）。できれば当面の問題の解決となってくれるような介入がありがたい。逆の場合、問題が悪化する方向で事態が進展すれば、人々は神などいらないと思う。しかしこの考えは人間の尺度で神を測ろうとする考えである。これをヒックはカテゴリー錯誤という言葉で棄却する（第九章）。

神は肯定と否定を超えている。神の言表不可能性、不立文字、ないし空性は、神が人間の尺度で測れないことを言っているのであり、中身が何もないというわけではない。神は人間の知り得る属性を持ち得ないのである（第一章）。

それでは、普通の人々が思い描く神、荘厳な宗教的建築物、音楽、儀式やありがたい説教は何なのか。そうしたものをヒック

クは宗教経験という言葉でひとまとめにする。またこうした宗教経験が人々の宗教生活を支えていることは事実である（序文第一章）。これについてヒックは「神は行為するが、神性は行為しない」というマイスター・エックハルトの言葉を引用する（第一章）。つまりヒックは、言表不可能な神性と、経験も表現も可能な宗教経験の両方があることを説明し、その上で言葉による表現はメタファー（隠喩）であり、文字どおりに解釈してはならないと言う（第六章）。

さまざまな宗教経験は、自身の経験内容をもとに、それぞれが別個に多くの神のイメージを形づくり、自分なりの宗派を立ててきた。ヒックは、このとき、自分の伝統の宗教経験は肯定し、他人の伝統の宗教経験を認めないのは非合理的であると言う。特定の宗派だけが真正であるとする理由はない。世界の偉大な宗教を前にして、自分の宗教以外は真正でないとはいいたくなつたなら、語り得ないものを語っている点において彼我の差はないことを思わなければならない。諸宗教の信念体系の相違は、唯一の究極者のさまざまな顕れに、我々が異なった対応、

異なつた記述をしているに過ぎない（第一章）。

このように、神に対して、また宗教に対して理解を深めるとともに、ヒックは信仰者の立場から見た宗教の意味、なぜ宗教が必要なのかという問いに答えようとする。ヒックは実際の意味と称し、宗教を意識することによって、この世で私たちが少し違つたやり方で行動し、対処するよう求めている。我々の人生が神の眼前で展開していると意識することで、人生の意味理解に大きな違いが作り出されるのである（第三章）。

また、ヒックはメタファーの例としてキリスト教が唱える受肉を取り上げ、これは理想や確信を生活の中で具体化することであると意味付ける。例えば、ネルソン・マンデラは南アフリカの反アパルトヘイト運動で勝利した後、自身の人生と行動によつて、赦しと和解の精神を具現したが、このことをヒックは赦しと和解の精神を受肉したというふうに表示する（第一章）。二〇〇一年の調査によると、英国では教会の礼拝に行つてい

る人と、行っていない人との割合は一对九であるという。ほとんどの人が教会に行っていないと言えよう。しかし、教会や、教会の説教に否定的であるにもかかわらず、学生の多くは宗教学の授業を選択している。教会に行かないとはいへ、人々は依然として心の拠りどころ、スピリチュアルなものを求めている。つまり、受肉をはじめ、処女受胎、イエスの復活など、百年一日の如くに権威を借りて教理を語ろうとする教会に対して、ピクバンの時代に七日間で天地が創造されたと言つた教会に対して、人々は魅力を感じなくなつてきているのである（第六章）。ヒックの視点は、時代を超えたキリスト教、次の世代においても頼れる宗教を見据えている。本書はその視点から「神とはいったい何ものか」の真摯な問いかけであり、哲学者が理性と信仰の間に見出した現実的な回答である（第七章）。

（いなだ・みものる 慶應宗教研究会会長
（四六判・二四九頁・本体二七〇円＋税・新教出版社）

渡辺善太著作選①

＊ヨベル新書24 待望の復刊！

聖書的説教とは？

加藤常昭師による
書き下ろし
巻頭エッセイ

お待たせしました！



神学者・加藤常昭師による書き下ろし巻頭エッセイ「なぜ『聖書的説教とは』は必読すべき書物なのか」を収録。如何に現代の教会がこの本の持つ大切な意義が語り尽くされる、教会者必読の本に仕上がっています。
◎新書判美装・三三〇頁・一、八〇〇円＋税
辻哲子先生 現実から投げかけられた問題を受け止めつつ、聖書に向き合い、六十六巻の正典から縦横無尽に適確な御言葉をもって問い返され……その考察を鋭い洞察力をもつて説き明かす聖書的説教。（『本のひろば』著作選①書評より）

マイケル・オー著 和解を通して

Reconciled to God

「ローザンヌ運動」の新総裁！
神の和解と宣教を語る！

世界ローザンヌ運動新総裁に選出された42才のマイケル・オー博士が神の和解と宣教をか神証の形で語りかける本邦初著。
＊ヨベル新書 025
64頁・400円＋税



金本 悟師：マイケル・オー新総裁のために、ローザンヌ運動と日本の教会も含めた世界の教会との良きパートナーシップのために、祈りをもってお支えください。（元日本ローザンヌ委員会委員長）

株式会社ヨベル YOBEL, Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
＊自費出版の専門出版社＊

「神の悔い」から展開する旧約聖書の神理解

イェルク・イェレミアス著

関根清三、丸山まつ訳

なぜ神は悔いるのか 旧約的神観の深層



柀 曉生

訳者あとがきによれば本書の原題は『神の悔い——旧約的神観の諸相』ですが、邦題はより根幹の主張を表わすため『なぜ神は悔いるのか——旧約的神観の深層』にしたとのこと。そして著者にそれを提案したところ、ドイツで新たな改訂版が出されることがあれば、これを採用したいと喜んでおられたと記されています。著者が悔いというテーマに出会ったのは一九七〇年代初頭で、それ以来このテーマが頭から離れず、一九七五年に本書の初版が出され、一九九七年にその増補改訂版（訳書はこれに基づく）が出されています。悔いについての著者の悔いなき探求が感じられます。なぜ彼はそれほどまで神の悔いにこだわったのでしょうか。それは彼が旧約聖書の悔いの箇所を調べているうちに、これは「旧約の特別な神経験をうまく表現している」（八頁）と思い当たり、神の悔いを切り口として、旧約における神理解を全面的に展開できると考えたからです。本書は訳注が付された四部構成になっています。

第一部の「ヘブライ語語根とその意味」は言語学的な考察から始まり、語根 *nm* は、復讐と憐れみ、慰めと後悔、いずれ

をも意味し得る語であると述べ、旧約においては神の悔いの方が人間の悔いよりもはるかに頻繁に（八倍も）出てくると言われます。そういえば、神の怒りも人の怒りの六倍ほどであったなどと思いつつ読み進めてゆくうち、最後の補遺Ⅱに至ると、ここでは「神の怒りが語られるのは圧倒的に、捕囚の破局に関する回顧的な神学的省察においてであり、神の悔いは圧倒的に預言者の神学の概念なのである」（一九〇頁）との簡潔にして要を得た著者の説明に出くわします。

第二部の「ヤハウェの悔い」は洪水の前に神が人を造ったことを悔やむ創六章と、サウルを王としたことを悔やむサム上一五章を扱っています。洪水の後にはもう二度と洪水はおこさないとの神の約束があり、サウルの棄却のすぐ後にはダビデが油注がれ選ばれるという事態があることから、洪水は今回限りのものであり、サウルの棄却は悔いることのないダビデへの約束と切り離して考えられるべきではないと述べ、「次代の人類は世界破局の恐れなしに生き、次代のすぐれた王とその王朝は棄却される恐れなしに統治する」というのである（二二頁）と結

論づけられます。

第三部の「ヤハウェの自制」は時代別に二部に分けて考察され、本書の中で一番長い部分となっています。それは、神の悔いが「本質的には預言者の観念の範疇に属し、圧倒的に預言者のテキストに出てくる」（六頁）という理由によるものです。前半の「A 古典預言者の時代とヨシヤ時代の神学」ではアモス、ホセアなどを中心にエレミヤ、出三三章、サム下二四章が取り扱われ、後半「B 捕囚時代、および捕囚後の祭儀教団の時代」ではエレミヤ、ヨエル、ヨナの考察が展開されています。ヨナ書では、ヤハウェの自制は、イスラエルだけが対象なのかあるいは異邦人にまでも及ぶのかという問題に対し、ヤハウェの赦しは、異邦人にまで及ぶものであり、ここに旧約から新約に渡る橋が架けられたことになると言われます（一六八頁）。

第四部の「ヤハウェの憐れみ」は新しい憐れみの時代に関しての考察です。イスラエルは、捕囚、捕囚後の時代になって初

聖公会出版

——新 刊 案 内——

対照・太宰治と聖書

編著 ● 鈴木範久・田中良彦

本書は愛読者の絶えない太宰の作品と聖書についての本格的な資料。キリスト教関係者のみならず、近代日本文学に関心がある者にとって垂涎の著作。



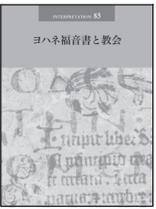
(A5判 本体定価3,000円)

ヨハネ福音書と教会

日本版インタープリテイション85号

総合監修 ● 月本昭男・大貫隆・西原康太

ヨハネ福音書は「教会の書」と呼ばれる。それは教会のあり方、個人の信仰のあり方を問いつつ進んでゆく。本号は改めてヨハネ福音書を読み直すときのよい手引きとなるはずである。



(A5判 本体定価2,000円)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

■新教出版社

カール・バルト／滝沢克己書簡集

寺園喜基訳

一九三四年、滝沢留学先のボン大学での出会いから、バルトが没する六八年まで、大戦を挟んで三四年に及ぶ、緊張をたえたえつつも相互の敬愛によって結ばれていた師弟。二人の間で交わされた八一通の書簡を収録。

四六判・272頁・予価3000円

ラディカル・ラブ——クイア神学入門

パトリック・チェン著／工藤万里江訳

ラディカル・ラブ——それは世界に存在するあらゆる二分法的な境界線を突破する過激な愛。啓示とはラディカル・ラブとしての神のカミング・アウトだ。本書は、クイア(性的少数者)の視点から、福音を再構築しようとする神学的冒険であり、福音の本来的なクイア性を気づかせてくれる刺激的な書である。

A5判・216頁・予価2000円

■教文館

魂への配慮としての説教

12の自伝的・神学的出会い

クリステイアン・メラ著／小泉 健訳

ルター、イヴァント、バルト、ポレン、加藤常昭など、時代・地域を越えて活躍した12人の神学者との豊かな出会いを通して、神の言葉を伝える喜びと説教の核心に迫る。

四六判・336頁・本体2600円

INFORMATION

近刊情報

ユダヤ慈善研究

田中利光著

欧米福祉思想の源流である古代ユダヤ起源の慈善に関する研究。聖書やミシュナなどの原典を渉猟し、ユダヤ教とキリスト教における慈善の制度・実践を体系的に考察。

A5判・356頁・本体4600円

■日本キリスト教団出版局

フォート・ソングブック

美しい大地は

桃井和馬写真／陣内大蔵 選詞
Ensemble DUMAGUETE 演奏

陣内大蔵氏が選んだ『讚美歌21』のことばと、世界で撮影された桃井和馬氏の写真によるフォートソングブック。各賛美歌の弦楽四重奏によるCD付き。

A5判横・64頁・本体2000円

叫び声は神に届いた

旧約聖書の12人の祈り

W・ブルッゲマン／福嶋裕子訳

アブラハムからヨブまで、体裁をかなぐり捨てて心を注ぎ出す12人の祈る姿を描き出す。神へ激しい祈りが、現代キリスト者の信仰を揺さぶり厳しく問います。

四六判・272頁・本体2600円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区御1-13-6 東北教区センター・エマof	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-8-2 千葉クリスチャンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nskk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisutokyoushotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yokohama-cts/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsha/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		ktjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacbs	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2014年11月号

特集

救いを神学する ― なにから、なにへの？

自明のごとく語られる「救い」とは何か？

寄稿者 渡辺優、鈴木順子、山口希生、佐藤真基子

クイア神学への誘い …………… 工藤万里江

新連載 南島キリスト教史入門 …………… 一色 哲

好評連載 高橋優子、岩田雅一、洛雲海、佐藤優、

青野太潮、寺園喜基、永本哲也、月本昭男、

沢知恵

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

福音的キリスト教

高倉徳太郎著／解説 宮田光雄（ハンデイレ）



福音的キリスト教

高倉徳太郎

編者：佐藤真基子

福音的キリスト教を確立する苦闘の中から書き下ろした名著であり「近代日本のキリスト教が生んだ神学的古典の一つ」（宮田光雄）である。 本体1800円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1

TEL : 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

日本キリスト教団出版局から発行されている月刊誌『信徒の友』が、創刊五〇周年を迎えた。一二月六日には、東京の富士見町教会を会場にして、感謝礼拝と記念講演会が開催される。

業界用語を使用して恐縮であるが、キリスト教出版界では『信徒の友』を略して「信友（しんととも）」と呼ぶ。偶然とはいえ「信友」とは、意味ありげな言葉である。

仏教では同信の人を「法友」とか「同行」と呼ぶらしい。キリスト教ではどうかであろうか。一般的には信徒同士を「兄弟姉妹」と呼んでいる。ただし「兄弟姉妹」という呼び方には、「法友」のような不特定多数の同信者という意味合いは希薄で、むしろ一教会内における人間関係の具体性を表すことの方が多し。そこでいつも思い出すのが、「信友」である。一教会内という枠を超え、同じ信仰で結ばれた不特定多数のキリスト者。そう言えば私にも「信友」がいた。

二十年ほど前、仕事で一ヶ月ほど大阪に滞在したことがある。

その間だけ礼拝を守る教会を探していたところ、ある方から「東教会を勧められた。私の所属教会は、東教会とは相容れないグループに属していたので、東教会が受け入れてくれないのではないかと心配する人もいた。しかし、東教会の牧師も信徒も暖かく私を迎え入れてくださった。暖かいどころか真夏の礼拝にもかかわらず、説教になると窓を閉め、扇風機を全部止めてしまうのには度肝を抜かれた。

最後の礼拝の日、皆様が歓送してくださった。その中のお一人。さる官庁を定年退職されたという女性が、教会の門まで私を見送ってくださった。それどころか炎天下、私の姿が見えなくなるまでずっと立っておられた。ばつが悪いことに教会から駅までまっすぐな道である。どこかで脇道に入ろうかとも考えたがそれも大人気ない。困ったなあと思いつつ、最後の交差点で振り返ると、その方が深々と頭を下げられた。そのお姿は、まさに「信友」であった。

（寺田）

イエスの譬え話 1

驚愕の解釈！

山口里子著 ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る

ぶどう園の主人や放蕩息子の父は本当に慈しみ深い神の譬えなのか？ イエスはガリラヤの農民たちに全く別のメッセージを送ったのではないのか？ フェミニスト視点による既成の読みの脱構築。

◆A5判・本体2000円

キリスト教思想の形成者たち

パウロからカール・バルトまで
ハンス・キュンク著 / 片山寛訳

ユニークな神学思想史入門

キリスト教史にパラダイム転換を画した7人の生涯と思想を鮮やかに描き出す。取り上げる思想家…パウロ、オリゲネス、アウグスティヌス、トマス、ルター、シユライエルマツハー、バルト。10月17日 ◆四六判・本体2900円

キリスト教とローマ帝国

小さなメシア運動が帝国に広がった理由
ロドニー・スターク著 / 穂田信子訳

古代教会のネットワークカ

話題！



なぜキリスト教は短期間に伝播できたのか？ 社会学的分析手法を用いて明らかにしたその理由とは？ 古代史の最大の疑問に対して、アメリカを代表する宗教社会学者が迫る。ピューリッツァー賞候補ともなった話題作。待望の邦訳。解説・松本宣郎 ◆四六判・本体3200円

福音的キリスト教

高倉徳太郎著 / 解説・小塩力・宮田光雄 [ハンディ版]

「近代日本が生んだ神学的古典の一つ」(宮田光雄氏) が読みやすい形で復刊 ◆B6変・本体1800円

使徒行伝 中巻

現代新約注解全書

荒井献著

10月24日

上巻から37年ぶりの刊行となる待望の続刊。中巻は使徒行伝6章1節から18章22節を扱う。邦人の手になる学術最高水準の行伝注解もいよいよ完結間近(下巻は2015年秋刊行予定)。

◆A5判・本体9000円

催事案内

新教出版社 創立70年記念
連続神学講演会 第3回 (最終)

荒井 献氏 「最後のパウロ
——使徒行伝 28章 30-31 節に寄せて」

10月25日土曜午後2時より日本基督教団
信濃町教会にて。入場無料ですが事前にお
申込をお願いします。

桃井和馬氏が捉えた美しい世界の写真に、『讃美歌21』の歌詞を添える



フォト・ソングブック

美しい大地は

桃井和馬 写真 陣内大蔵 選詞
Ensemble DUMAGUETE 演奏

器楽演奏
CD付

『讃美歌21』のことばと世界で撮影された写真が、この時代に生きるわたしたちに寄り添い、慰め、勇気づけ、問いを投げかける。全28曲を収録。各曲の弦楽四重奏によるCD付き。◆A5判横 上製・64頁・2,160円



『信徒の友』創刊50周年記念特別復刊

人生おもしろ説法

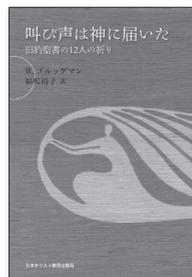
田河水泡



「のらくる」作家田河水泡が、聖書がよく知られた場面を題材に、人生の機微を笑い話と挿絵で綴った、ユーモアあふれる伝道エッセイ。
◆四六判 上製・216頁・1,620円

叫び声は神に届いた 旧約聖書の12人の祈り

W.ブルッゲマン 福嶋裕子 訳



アブラハムからヨブまで、体裁をかなぐり捨てて心を注ぎ出す12人の祈る姿を描き出し、現代キリスト者の信仰を厳しく問い質す。
◆四六判 並製・272頁・2,808円

イベントのご案内

皆さまのお祈りとお支えに感謝して 『信徒の友』創刊50周年記念 感謝礼拝・特別講演会 東京

■日時 2014年12月6日(土) 午後1時~3時

■会場 日本基督教団 富士見町教会
東京都千代田区富士見2-10-1

■定員 先着300名

入場無料 ※入場整理券が必要です。

申込方法など、詳しくはホームページをご覧ください。



感謝礼拝……………

説教 大宮 溥氏 日本聖書協会理事長、
『信徒の友』編集委員

特別講演会……………

「平和を実現する人々は、幸いである」

カンサンジョン 聖学院大学学長、
東京大学名誉教授
講師 姜尚中氏